

7. 英語教育における今後の養成・ 研修について

これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について(答申)(1/2)

平成27年12月21日中央教育審議会

背景

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">○教育課程・授業方法の改革(アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、教科等を越えたカリキュラム・マネジメント)への対応○英語、道徳、ICT、特別支援教育等、新たな課題への対応○「チーム学校」の実現 | <ul style="list-style-type: none">○社会環境の急速な変化○学校を取り巻く環境変化<ul style="list-style-type: none">・大量退職・大量採用→年齢、経験年数の不均衡による弊害・学校教育課題の多様化・複雑化 |
|--|---|

主な課題

【研修】

- 教員の学ぶ意欲は高いが多忙で時間確保が困難
- 自ら学び続けるモチベーションを維持できる環境整備が必要
- アクティブ・ラーニング型研修への転換が必要
- 初任者研修・十年経験者研修の制度や運用の見直しが必要

【採用】

- 優秀な教員の確保のための求める教員像の明確化、選考方法の工夫が必要
- 採用選考試験への支援方策が必要
- 採用に当たって学校内の年齢構成の不均衡の是正に配慮することが必要

【養成】

- 「教員となる際に最低限必要な基礎的・基盤的な学修」という認識が必要
- 学校現場や教職に関する実際に体験させる機会の充実が必要
- 教職課程の質の保証・向上が必要
- 教科・教職に関する科目の分断と細分化の改善が必要

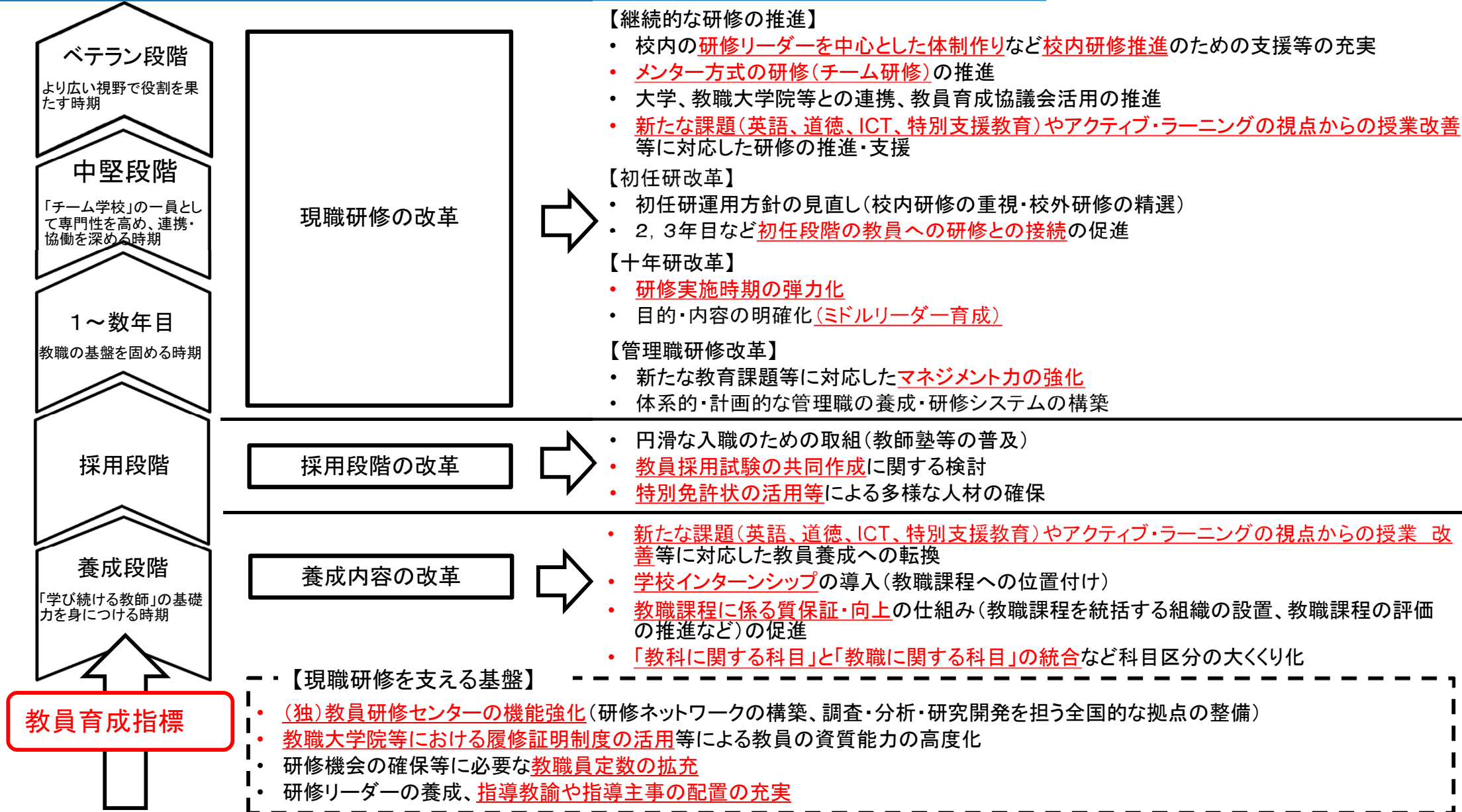
【全般的事項】

- 大学等と教育委員会の連携のための具体的な制度的枠組みが必要
- 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等の特徴や違いを踏まえ、制度設計を進めていくことが重要
- 新たな教育課題(アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、ICTを用いた指導法、道徳、英語、特別支援教育)に対応した養成・研修が必要

- 【免許】○義務教育学校制度の創設や学校現場における多様な人材の確保が必要

これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について(答申)(2/2)

○ 養成・採用・研修を通じた方策～「教員は学校で育つ」との考えの下、教員の学びを支援～



○ 学び続ける教員を支えるキャリアシステムの構築のための体制整備

- 教育委員会と大学等との協議・調整のための体制(教員育成協議会)の構築
- 教育委員会と大学等の協働による教員育成指標、研修計画の全国的な整備
- グローバル化や新たな教育課題などを踏まえ、国が大綱的に教員育成指標の策定指針を提示、教職課程コアカリキュラムを関係者が共同で作成

「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（答申）」※英語関係部分抜粋 (平成27年12月21日 中央教育審議会配付資料)

4. 改革の具体的な方向性

(4) 新たな教育課題に対応した教員研修・養成

・英語教育の充実のため、次期学習指導要領改訂の検討状況も踏まえつつ、国は外部専門機関等との連携により、各地域の指導者となる「英語教育推進リーダー」の養成を推進する必要がある。各地域では、リーダー等が教育委員会と大学等が連携して実施する研修の企画・運営への参画、学校内外の研修講師、公開授業の実施や、地域の英語担当教員に対する指導・助言を行う等の役割を担い、小・中・高校の一貫した英語教育や、小学校の英語教育の専門性向上等を推進することが期待される。具体的には、「英語教育推進リーダー」と英語教育担当指導主事等が中心となって、小・中・高校の連携による研修の実施や、各学校を訪問し、小・中・高校の接続を意識した指導計画の作成や「～することができる」という形で表したCAN-DO形式での学習到達目標を活用した授業改善などについて指導・助言を行うことなどが期待される。

また、このような地域のリーダーの活動が可能となるような体制整備が必要である。さらに、小学校教員が教科化に向けた専科指導や小・中・高校の一貫した学びの接続に留意した指導に当たることが可能となるよう必要な研修を充実するとともに、「免許法認定講習」の開設支援等による小学校免許状と中学校英語免許状の併有を促進する必要がある。

(略)

・英語教育については、小学校における英語の教科化への対応や中学・高等学校の「話す」「書く」の指導力の向上を図るため、大学、教育委員会等が参画して養成・研修に必要なコアカリキュラム開発を行い、課程認定の際の審査や各大学による教職課程の改善・充実の取組に活用できるようにする。また、小学校中学年の外国語活動導入と高学年の英語の教科化に向け、音声学を含む英語学など専門性を高める教科の科目とともに教職に関する科目を教職課程に位置付けるための検討を進めるべきである。

(4) 教員養成に関する改革の具体的な方向性

○ 特に、国立の教員養成を目的とする大学・学部は、地域のニーズを踏まえつつ、4(1)③の新たな教育課題や以下に求められる課題に対応した取組を率先して実施することにより、国立大学に置かれる意義・目的を明確にするとともに、他大学・学部におけるモデルを提示して、その取組を普及・啓発することが重要である。具体的には、「第3期中期目標期間における国立大学法人運営費交付金の在り方に関する検討会」の審議のまとめにおいて重点配分の評価指標の例として示された「人材育成や地域課題を解決する取組などを通じて地域に貢献する取組」の評価指標例の一つとして「地域教育（初等中等教育、職業教育、生涯学習等）への貢献状況」が取り上げられているが、このような取組として、アクティブ・ラーニングの充実、ICTの利活用、道徳教育、外国語教育、特別支援教育の充実などの初等中等教育における新たな教育課題に対応するための教員養成や教員研修の支援などの取組が考えられることから、各大学においては積極的にこれらの取組を進めていくことが求められる。また、教員養成学部を有する私立大学等についても、前述の教員育成協議会（仮称）に参画するなど、地域の教育委員会と連携の下、新たな課題等に対応した教員養成・研修を一体的に行うことを検討する必要がある。

(5) 教員免許制度に関する改革の具体的な方向性

① 中学校及び高等学校の教員免許状所有者による小学校での活動範囲の拡大

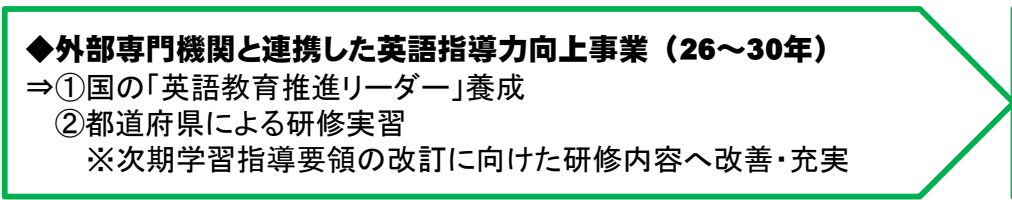
○ 本年6月に学校教育法等の一部を改正する法律が制定され、義務教育学校が平成28年4月より導入されることが予定されており、これを契機として、全国的に小中一貫教育の取組が一層進むことが予想される。また、小学校における外国語教育の更なる充実などが検討される中、教科に関する高い専門性を持つ中学校等の教員を小学校として活用しやすくするため、教科等に加え学級担任も可能にするよう制度改正を行うことが必要である。

○ なお、相当免許主義は堅持しつつ、本措置により中学校等の教員を小学校又は義務教育学校の前期課程の教員として配置する場合には、任命権者等は小学校における組織、教育内容、学級運営等に関しあらかじめ研修を行うよう法令上措置すべきである。

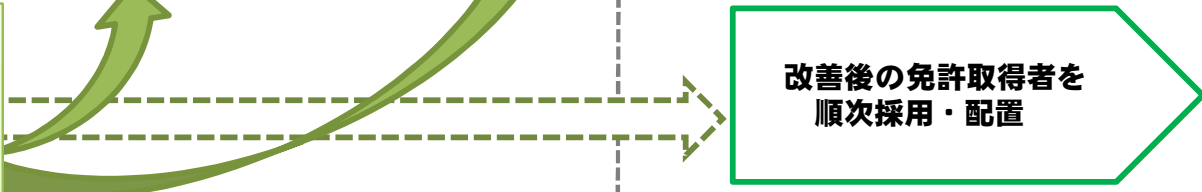
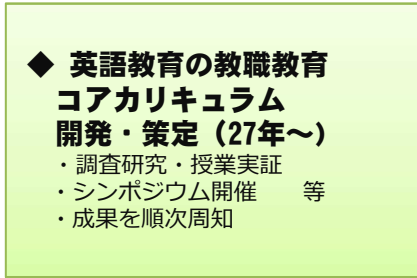
小学校英語の早期化・教科化、中・高等学校英語の充実のための 教員養成・研修の充実に向けた施策等(イメージ)(案)



◆「英語教育の在り方に関する有識者会議」
26年9月:報告



英語力・指導力の高い教員の養成・採用・研修を一体的に推進



これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について(工程表のイメージ)

—: 制度改正(国)
—: 予算・事業等(国、各地域)



外部専門機関と連携した英語指導力向上事業

平成28年度予算額 263,470千円
(303,010千円)

教育再生実行会議
第三次提言
(H25. 5. 28)

第2期教育振興基
本計画
(H25. 6. 14)

グローバル化に対応した
英語教育改革実施計画
(H25. 12. 13)

英語教育の在り方に関する
有識者会議 報告
(H26. 9. 26)

中央教育審議会における審
議 論点整理
(H26. 11~H27. 8)

○国が外部専門機関(外国の公的機関等)と連携して以下を対象とした指導力向上事業を実施【600名程度】

- ・小・中・高等学校の学校英語教育の推進リーダー
- ・外国語指導助手(ALT)リーダー

* 国私立大学附属学校、公私立小・中・高等学校教員対象

○都道府県・政令指定都市教育委員会が外部専門機関(国内外の公的機関、大学等)と連携して指導力向上事業を実施

※委託事業: 47件(都道府県・政令指定都市教育委員会)

※域内の英語教育改善プランの策定、明確な目標設定及び目標管理

【取組例】

- ・国の指導力向上研修を修了した推進リーダーによる研修
- ・域内の大学等との連携
- ・海外・大学等からの講師招聘 等

＜英語教育推進リーダーの役割(例)＞

- ①各地で中核となる小学校教員や中・高等学校の英語担当教員の研修講師
- ②研究会、研究授業等における講師、助言者
- ③校内研修、授業・評価の改善のための日常的な指導・助言 等

平成26年度より5年間程度をかけ、小学校中核教員、中・高等学校の英語教員の指導力向上を図る

指導力の向上

一定以上の
英語力担保

現職研修

採用

養成

資質能力の育成

◆国及び都道府県等による目標

【成果指標】

- ・パフォーマンス評価実施状況
 - ・生徒の英語による言語活動時間の割合
 - ・教員の英語使用状況の割合
 - ・求められる英語力を有する教員の割合 等
- ※ 都道府県等は年次目標を設定。

◆ 国及び都道府県による目標設定 →
フォローアップ → 改善へ

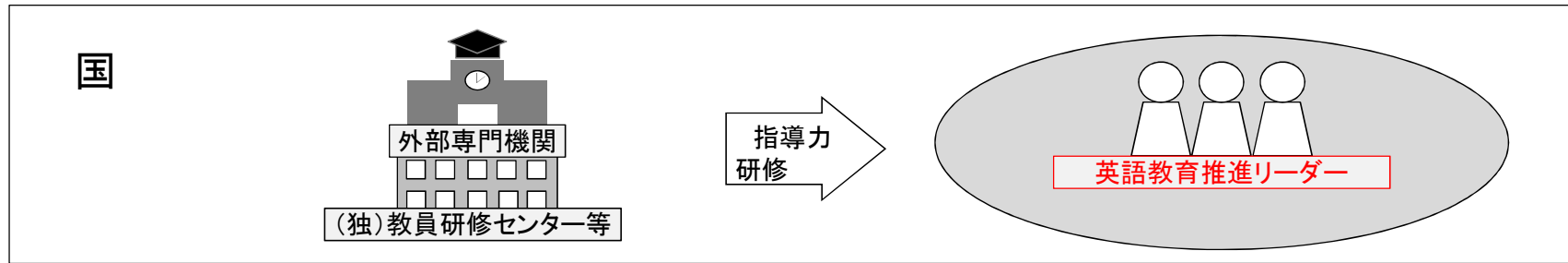
英語担当教員

中27.7%
高52.3%

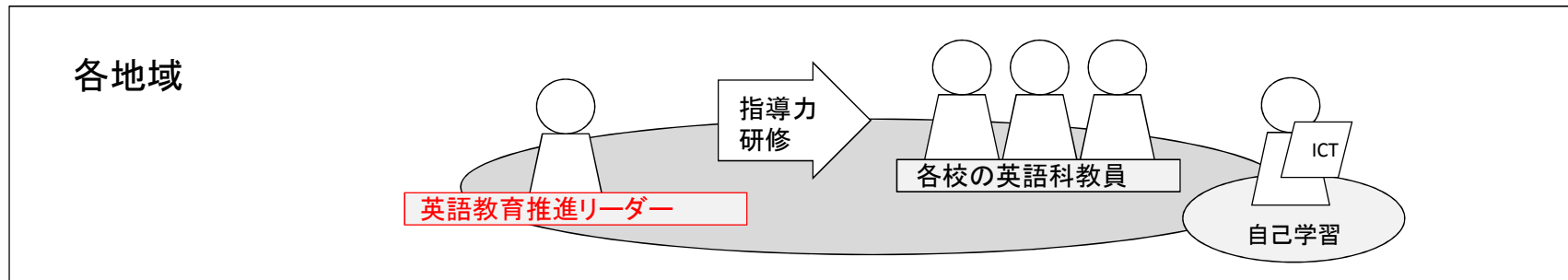
中50%
高75%

※求められる英語力(第2期教育振興基本計画H25.6): 英語担当教員 英検準1級程度以上

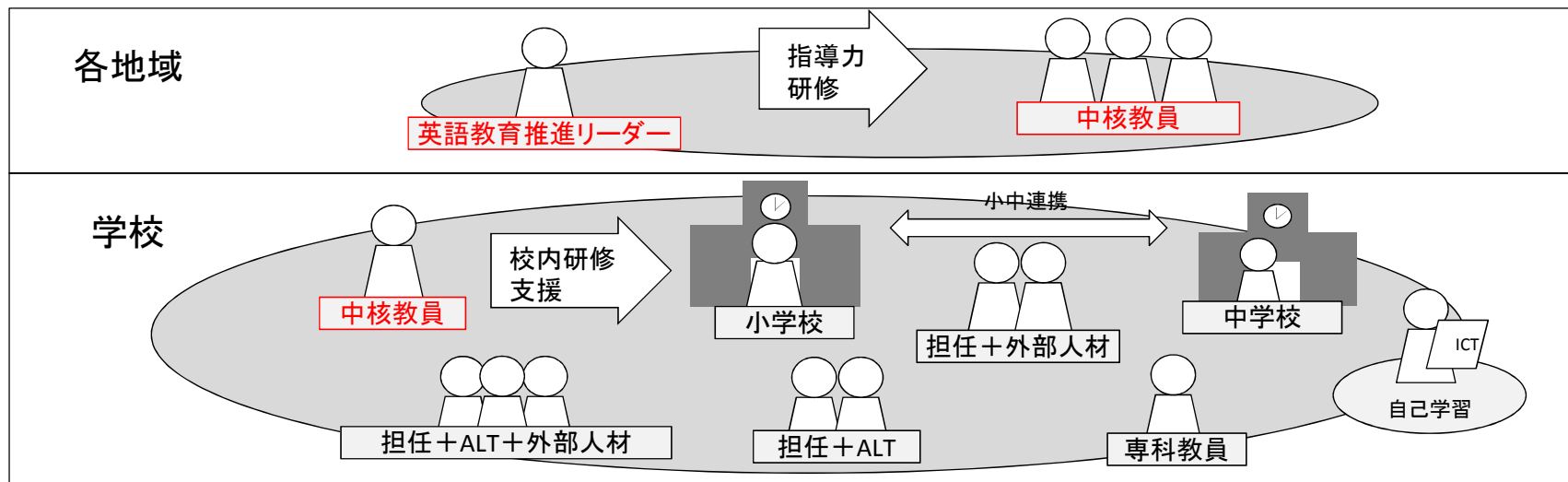
新たな英語教育の実現のための研修体制(イメージ)



【中・高等学校】



【小学校】



これらの研修に加え、教員養成課程の改善充実により、英語指導力に優れた小学校教員を養成・輩出

(参考)平成26年度外部専門機関と連携した英語指導力向上事業「英語教育推進リーダー研修」

H26

事前課題 (所属校にて)

- ・授業をビデオ撮影し、分析

中央研修 (1)

実践のための研修 (教員研修センターにて)

- (春～夏に実施)
- ・英語力テスト
- ・5日間の研修 (自らの指導に活かす研修)

授業での実践 (所属校にて)

- ・研修成果を自らの授業で実践
- ・オンライン教材の活用
- ・中央研修への参加者相互の交流 (オンラインサイト)
- ・授業をビデオ撮影し、分析

中央研修 (2)

指導のための研修 (教員研修センターにて)

- (秋～冬に実施)
- ・5日間の研修 (域内研修の準備に向けた研修)

H27

地域の中核教員に
対する研修 (教育委員会にて)

【中央研修の成果を、全国各地に確実に波及】

- ・中央研修の修了者が「中核教員」に研修 (各人が年7回の研修を担当し、研修記録を国に提出)
- ・国は、研修の状況を訪問調査で確認
- ・教育委員会と大学の連携を進め、研修を「免許法認定講習」「更新講習」の一部とする
- ・中央研修の修了者は、「中核教員」への研修を完遂した上で、「英語教育推進リーダー」として認証される

「英語教育推進リーダー」として国が認証

H28～

研修の更なる充実

- 研修修了者の指導力などを分析しながら、研修内容を改善する

外部専門機関との連携による英語指導力向上の取組における中・高等学校教員の研修概要

中・高等学校英語教育推進リーダー研修

従来の中・高等学校外国語担当教員の研修

目的

- 生徒の4技能にわたる総合的なコミュニケーション能力を育成するための指導方法及び評価方法の習得

目標

- 英語で行うことを基本とする授業
- 生徒の英語による言語活動が中心となった授業

受講者

- 地域の英語教育の推進リーダーとなる高等学校教員（100名）

形態

- 集合研修：5日間×2回（5月・10月）
- 学校での実践
- カスケード方式
〔集合研修1〕→〔授業実習〕→〔集合研修2〕
→〔研修実習〕（域内教員への研修 14時間程度）
※域内の教員対象の研修会等で講師を務める

内容

- [講義と実践]
- 授業運営のための教室英語の使い方
 - スピーキング(S), リーディング, リスニング, ライティング(W)の教授法と実際の言語活動
 - パフォーマンス評価(S, W)
 - コミュニケーション能力を育成するための教科書等の教材の効果的な活用法
 - 語い, 表現, 文法の指導法

総合的なコミュニケーション能力を育成する指導法

英語力指導力評価

- 研修開始前に、4技能型英語月試験を受験 → 研修中に結果返却
- 研修開始前及び研修後の授業をビデオ撮影, 提出 → 研修者自身による変容把握, トレーナーによるフィードバック

その他

- 集合研修がない期間（授業実習及び研修実習期間中）は課題への取組
→ 授業実習期間：集合研修を踏まえた授業実践及びその記録, オンライン教材で英語力向上のための自己研修
→ 研修実習期間：研修実習計画書の作成, 講師として研修の実施, 実施した研修の自己評価
- 受講者ネットワーク（オンライン・コミュニティー）の構築による情報共有
- 研修前後の指導力評価方法の開発（ベンチマーク等を用いた自己評価・指導改善・事業改善）

- 学習指導要領の趣旨に沿った指導方法や評価方法の習得 等

- 高等学校学習指導要領「外国語」の趣旨理解とそれに基づく授業実践及び学習評価 等

- 研修ごとに異なる高等学校外国語科教員

- (例)
- 教育委員会主催：教育課程説明会（年1回, 各校1名）, 経験者研修（年数コマ, 該当教員の悉皆研修）
 - 教育センター主催：英語教育に関する講座（年数回, 希望研修）
 - 高等学校英語部会(任意団体)主催：講演, 分科会（年1~2回, 各加盟校から1名）

- (例)
- 研究授業に基づく授業研究
 - 実践事例紹介
 - 研究テーマに基づく実践発表と研究討議

これまでの課題

- 参加した教員の研修成果を, 他の教員や学校に対して普及していくことが極めて困難。
- 一部の教員しか研修に参加していない。
- 研修内容が単発的で系統だっていない。
- 実際の授業指導や学習評価に結び付く実践的な内容が少ない。

8. 外部試験団体と連携した英語力 調査事業（中学3年生）について

平成27年度 英語力調査結果（中学3年生）の速報（概要）

1 調査の目的

- 中学3年生を対象に、英語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）がバランスよく育成されているかという観点から、生徒の英語力を測定し、調査結果を学校での指導や生徒の学習状況の改善・充実に活用。

〈参考〉

「第2期教育振興基本計画」（平成25～29年度）に、グローバル人材の育成に向けた取組として、民間の資格・検定試験団体と連携した生徒の英語力の把握・検証による戦略的な英語教育改善の取組支援を提言。また、成果指標として、中学3年生、高校3年生の英語力の目標を設定。

* 第2期教育振興基本計画（平成25年～29年度）における成果指標

①国際共通語としての英語力の向上

・学習指導要領に基づき達成される英語力の目標（中学校卒業段階：英検3級程度以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度～2級程度以上）を達成した中高校生の割合50%

2 調査の内容・対象

- 全国の中学3年生約6万人（国公立約600校）の英語力を調査
 - ・学習指導要領に基づき、全員を対象に3技能（聞くこと、読むこと、書くこと）試験を実施。
 - ・「話すこと」は約2万人を調査（1校あたり1クラスを対象）。
- 生徒の英語学習状況や英語担当教員の指導状況を把握・分析(質問紙調査)
 - ・受験した生徒：英語学習に関する関心・意欲や授業内外における学習状況
 - ・調査実施対象校の英語担当教員：授業における指導状況 など
- 学校の取組事例
 - ・調査結果において特徴が見られた学校における取組内容の調査
- 調査実施時期：平成27年6月末～7月
※平成27年11月 生徒個人票返却、平成28年3月末を目途に結果をとりまとめ・公表

3 調査の特徴

- 国による全国無作為抽出で行う大規模な4技能型試験のフィージビリティ調査。
(小学校5、6年生の外国語活動を経験した中学生に対する初めての調査)
- 現行学習指導要領で学んだ生徒の調査を実施。来年度も引き続き実施
- 世界標準となっているCEFR（Common European Framework of Reference for Languages：ヨーロッパ言語共通参照枠）のA1を中心にレベルを測定できるように設計。（別紙参照）

4 テスト結果と質問紙の分析サマリ

※以下の結果・分析は公立学校のデータを対象としている



「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能が
バランス良く育成されていない

1. 総論

- ・ 4技能全てにおいて課題がある。また、国の目標((CEFR A 1 上位相当レベル) : 50%)を達成する生徒の割合が「読むこと(26.1%)」「聞くこと(20.2%)」「話すこと(32.6%)」「書くこと(43.2%)」など4技能がバランス良く育成されていない。
- ・ 特に「書くこと」の得点者はA1上位の割合が43.2%と高いが、一方で、無解答者が12.6%となるなど全体にバラツキがある。
※本調査の中学3年生は、平成23年度に必修化された、小学校の外国語活動を経験した生徒



学習意欲に課題

2. 英語学習に対する生徒の意識

〈テスト結果と質問紙の分析〉

○「英語の学習は好きですか。」

- ・ 「英語の学習が好きではない」との解答が**43.2%**。特にA1下位レベルにおいて顕著。
- ・ **テストスコアが高いほど、「英語が好きである」生徒の割合が高い。**

○「どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。」

- ・ 現在の英語力のレベルによって将来の英語使用のイメージが異なる。
- ・ 「英語をどの程度身に付けたいと思っていますか」という問いに対し、「**話すこと**」の**テストスコアが高いほど**、あるいは「読むこと」の**テストスコアが高いほど**、「英語を使って国際社会で活躍できるようになりたい」、「海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい」といった**将来の英語使用のイメージが明確な生徒の割合が高い。**

〈2. の改善の方向性〉

- ⇒ 生徒が「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、主体的に学ぶ意欲や態度の育成を含めた**具体的な指標形式の目標を設定**し、生徒が達成感を得られるようにする。
併せて、**主体的・協働的な学びにつながる学習・指導方法（アクティブ・ラーニングの視点を含む）、及び評価方法の在り方を検討・改善。**

3. 生徒の4技能の言語活動に対する意識

特に「話す」「書く」
言語活動が十分でない

<テスト結果と質問紙の分析>

○ 4技能全体にわたって、言語活動に対する、生徒の意識(「話す」「書く」などの言語活動をしていたと思う生徒の割合が高い)と教員の意識(「話す」「書く」などの言語活動を行っていると思う教員の割合が低い)に認識の差がある可能性がある。

◆聞くこと◆

○ 「英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動をしていましたか。」

・ 英語を聞いて、概要や要点をとらえる活動をしていましたと答えた生徒は、**72.5%**。

・ 「聞くこと」の**テストスコアが高いほど**、あるいは「読むこと」の**テストスコアが高いほど**、授業において「英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動をしていましたか」と思う**生徒の割合が高い**。

◆話すこと◆

○ 「与えられた話題について、(特に準備をすることなく)即興で話す活動をしていましたか。」

・ 与えられた話題について、即興で話す活動をしていましたと答えた生徒は、**49.6%**。

・ 「話すこと」の**テストスコアが高いほど**、授業において「与えられた話題について、即興で話す活動をしていましたか」と思う**生徒の割合が高い**。

○ 「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていましたか。」

・ 英語でスピーチやプレゼンテーションをする活動をしていましたと答えた生徒は、**59.0%**。

・ 「話すこと」の**テストスコアが高いほど**、授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていましたか」と思う**生徒の割合が高い**。

◆読むこと◆

○ 「英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動をしていましたか。」

・ 英語を読んで、概要や要点をとらえる活動をしていましたと答えた生徒は、**75.3%**。

・ 「読むこと」の**テストスコアが高いほど**、授業において「英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動をしていましたか」と思う**生徒の割合が高い**。

◆技能統合型◆

○ 「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思いますか。」

・ 聞いたり読んだりしたことについて、英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動をしていましたと答えた生徒は、**67.2%**。

・ 「話すこと」の**テストスコアが高いほど**、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたか」と思う**生徒の割合が高い**。

○ 「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。」

・ 聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりした活動をしていましたと答えた生徒は、**62.2%**。

・ 「書くこと」の**テストスコアが高いほど**、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたか」と思う**生徒の割合が高い**。

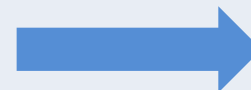
<上記3.の改善の方向性>

⇒ 基礎的な知識・技能を活用し、生徒の互い考えや気持ちなどを英語で伝え合う対話的な言語活動を豊富に体験させ、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする総合的なコミュニケーション能力を高める必要がある。

⇒ あわせて「聞いて書く」など複数技能を統合して使う活動を通して、生徒が実社会や実生活の中で、自らが課題を発見し、主体的・協働的に探求し、考えや気持ちを互いに伝え合うことを目的とした学習・指導方法(アクティブ・ラーニングの視点を含む)や評価を行うことが必要。

4. 教員の授業における言語活動の指導に対する意識

<質問紙の分析>



技能統合型の言語活動
・指導が十分でない

◆聞くこと◆

- 「まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っていますか。」
・まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っている教員は、**73.5%**。

◆話すこと◆

- 「与えられたテーマについて簡単なスピーチをする活動を行っていますか。」
・スピーチを行っている教員は、**53.5%**。

◆読むこと◆

- 「伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる活動を行っていますか。」
・伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じている教員は、**47.0%**。

◆書くこと◆

- 「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書く活動を行っていますか。」
・自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように文章を書く活動を行っている教員は、**54.5%**。

◆技能統合型◆

- 「聞いたり読んだりしたことなどについて問答したり意見を述べ合ったりなどする活動を行っていますか」
- 「聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどする活動を行っていますか。」
・聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話合いや意見交換を行っている教員は、**37.1%**、書く活動を行っている教員**(37.5%)**が少ない。
- 「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる活動を行っていますか」
・英語を読んで、感想を述べたり賛否やその理由を示すことができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる活動をしている教員**(37.4%)**が少ない。

生徒全体の英語力の傾向

○ 4技能全てにおいて課題がある。

また、CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠) A1レベル上位以上の割合が「聞くこと(20.2%)」「話すこと(32.6%)」「読むこと(26.1%)」「書くこと(43.2%)」となるなど 4技能がバランス良く育成されていない。

○ 特に、「書くこと」の得点者はA1レベル上位以上の割合が43.2%と高いが、一方で、無解答が12.6%となるなど全体にバラツキがある。

【生徒全体のスコア分布(公立)】

<読むこと> 28問 (約32分)

Reading		平成27年度	
CEFR	得点	人数	割合
A2	170	29751	3.0%
A1上位	160	11417	23.1%
	150	13558	
	140	17780	
	130	25113	
	120	35536	
	110	52016	
	100	72067	
A1下位	90	98810	73.9%
	80	122753	
	70	131467	
	60	123406	
	50	98874	
	40	77130	
	30	43771	
	20	18676	
	10	9321	
	0	2306	
平均	82.6		
調査対象		983,756	

<聞くこと> 32問 (約18分)

Listening		平成27年度	
CEFR	得点	人数	割合
A2	170	20920	2.1%
A1上位	160	8713	18.1%
	150	12915	
	140	20081	
	130	27065	
	120	42781	
	110	66200	
	100	103445	
A1下位	90	142805	79.8%
	80	173988	
	70	165773	
	60	111255	
	50	51704	
	40	21314	
	30	6647	
	20	2509	
	10	2533	
	0	3108	
平均	90.5		
調査対象		983,756	

<書くこと> 2問 (約25分)

Writing		平成27年度			
CEFR	得点	人数	割合		
A2	95	0	0.1%		
	90	0			
	85	0			
	80	20			
	75	111			
	70	1,342			
	65	5,463			
A1上位	60	29,181	43.1%		
	55	40,866			
	50	54,332			
	45	82,315			
	40	116,251			
	35	97,538			
	30	92,319			
	25	76,900			
	20	68,606			
	15	26,999			
A1下位	10	86,955	56.7%		
	5	17,872			
	0	190,086			
	平均	28.5			
	調査対象	987,155			
	0点	124,230		12.6%	

<話すこと> 3問 (対面約10分)

Speaking		平成27年度	
CEFR	得点	人数	割合
A1上位	14	17694	32.6%
	13	17221	
	12	20525	
	11	19837	
	10	24180	
	9	23200	
A1下位	8	24094	67.4%
	7	26597	
	6	26921	
	5	28002	
	4	20323	
	3	23500	
	2	11642	
	1	12219	
	0	8999	
	平均	7.4	
調査対象		304,953	
0点		8,999	3.0%

※調査対象は都市規模と学校規模をもとに抽出を行った。

調査結果は母集団に対する標本の抽出率に応じて抽出ウェイトをかけて集計を行っている。

そのため、度数分布の各度数とアンケート解答人数は実際の被験者数とは異なる。

※CEFRは、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力評価のために、透明性が高く分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会 (Council of Europe) が発表した。欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等・中等教育を通じた目標として適用されたり、言語能力に関する調査を実施するにあたって用いられたりしている。本調査では、便宜上A1～A2レベルまでを得点帯刻みに設定し分布を把握。(別紙参照)

注) CEFRの「A1」は、CEFR-Jでは「A1.1」「A1.2」「A1.3」に分割される。本調査のCEFR閾値は、「Pre A1」「A1.1」を「A1下位」、「A1.2」「A1.3」を「A1上位」とした。

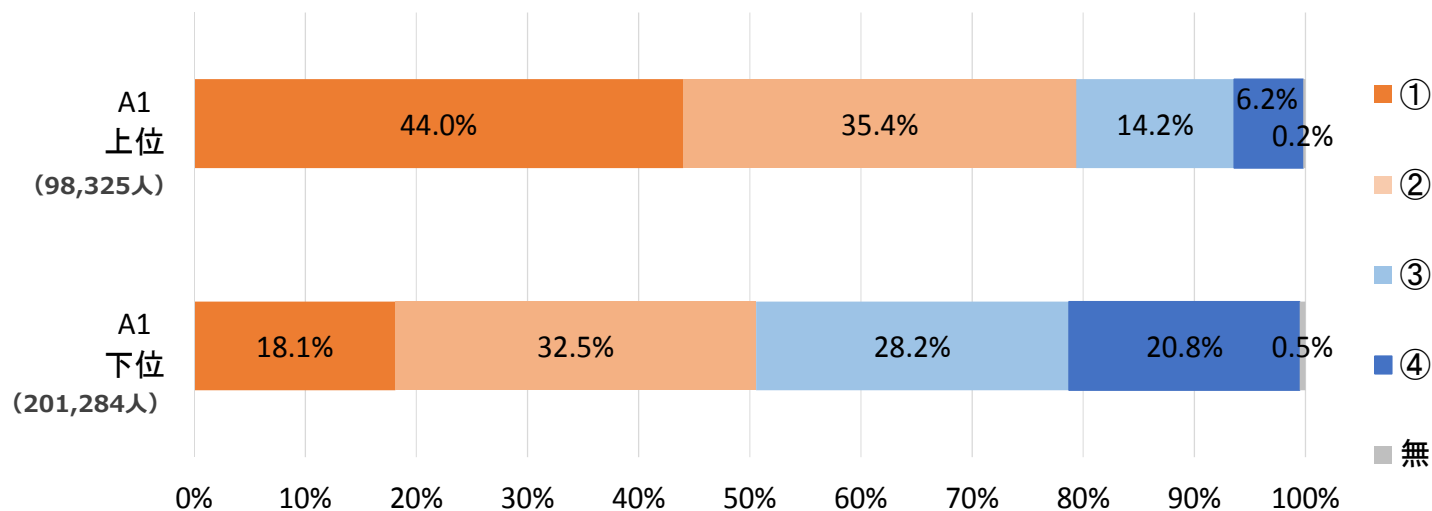
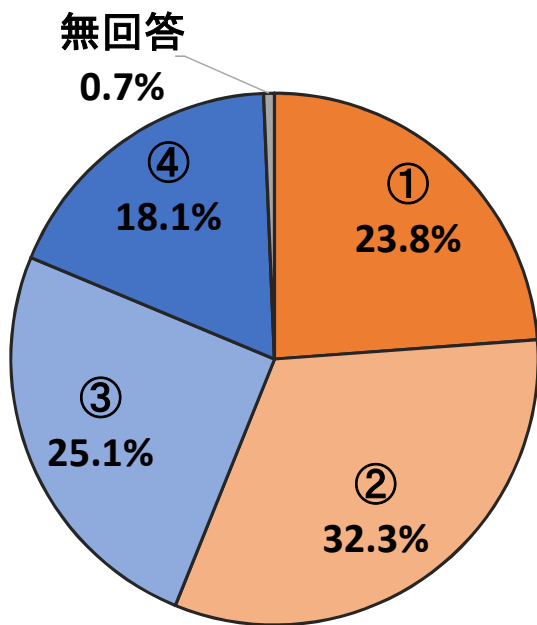
1.英語学習に対する生徒の意識

生徒の英語学習に対する意識

- 「英語が好きではない」（選択肢③④合計）との解答が、43.2%。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、「英語が好きである」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

問 英語の学習は好きですか。最も当てはまる選択肢を1つ選んでください。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



※ 「話すこと」のテスト結果とのクロス

1.英語学習に対する生徒の意識

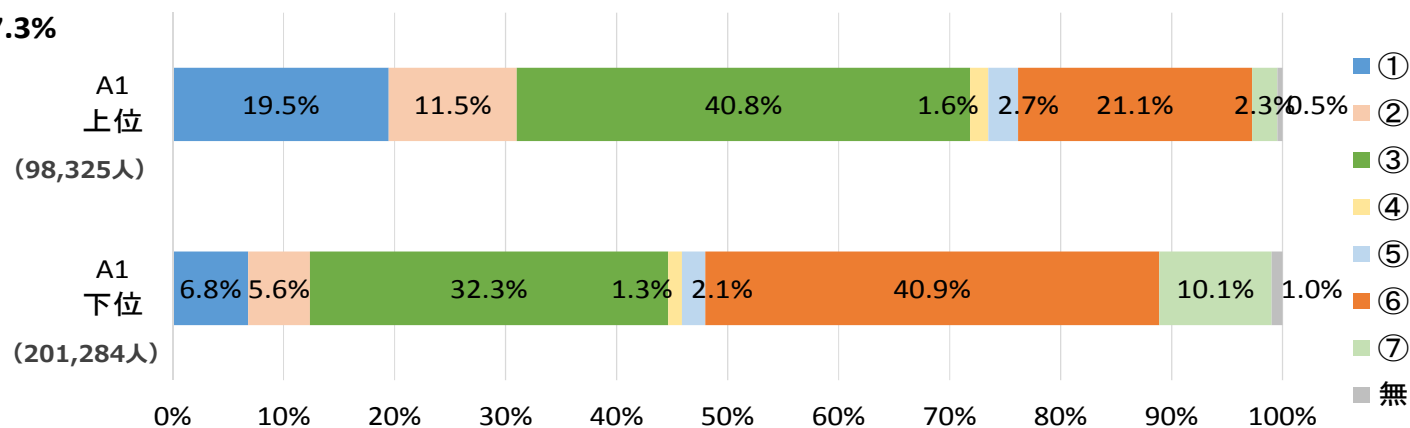
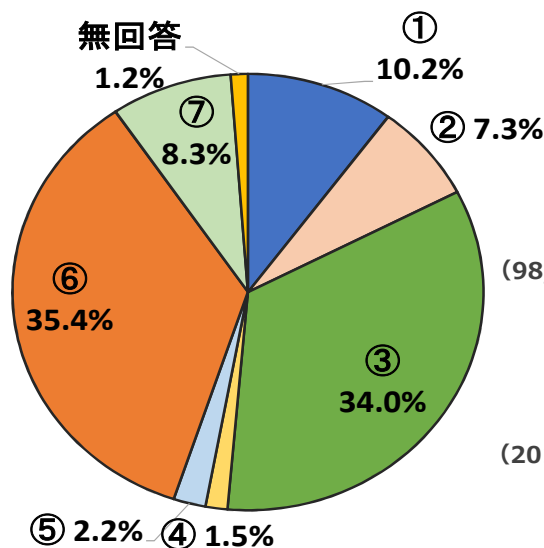
現在の英語力と将来の英語使用のイメージ

○ **現在の英語力のレベルによって将来の英語使用のイメージが異なる。**

「英語をどの程度身に付けたいと思っていますか」という問いに対し、「話すこと」のテストスコアが高いほど、「英語を使って国際社会で活躍できるようになりたい」（選択肢①）「海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい」（選択肢②）を選択する生徒の割合が高い。

問 どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを1つ選んでください。

- ① 英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい
- ② 海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい
- ③ 海外旅行などをするときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい
- ④ 高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい
- ⑤ 大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい
- ⑥ 高校入試に対応できる力を付けたい
- ⑦ 特に学校の授業以外での利用を考えていない



※ 「話すこと」のテスト結果とのクロス

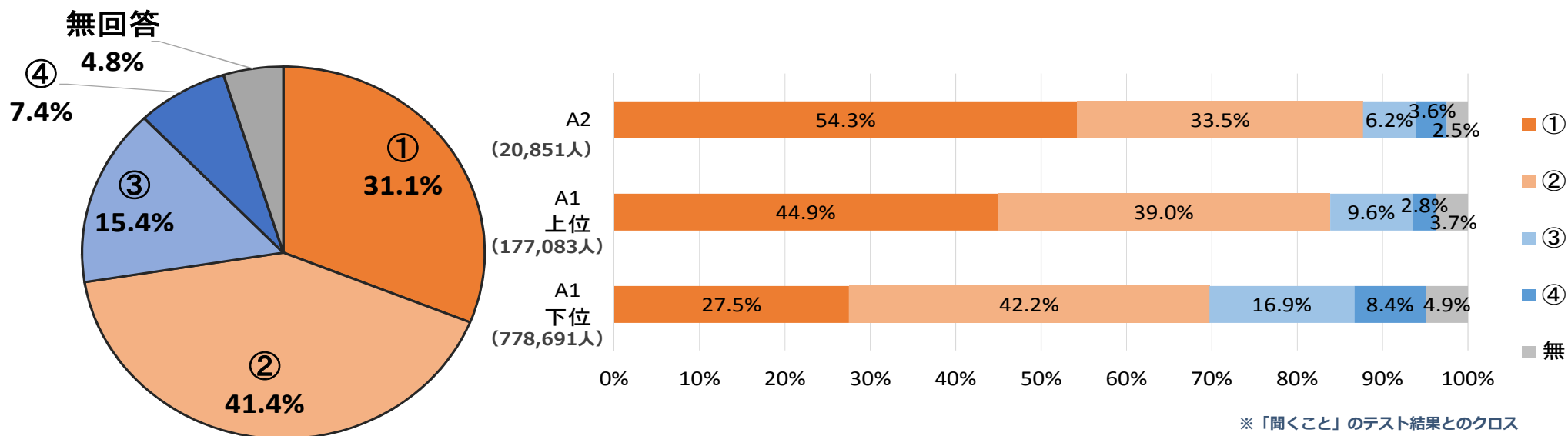
2. 4技能の言語活動に対する生徒の意識

4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「聞くこと」

- 英語を聞いて、概要や要点をとらえる活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、72.5%。
- 「聞くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



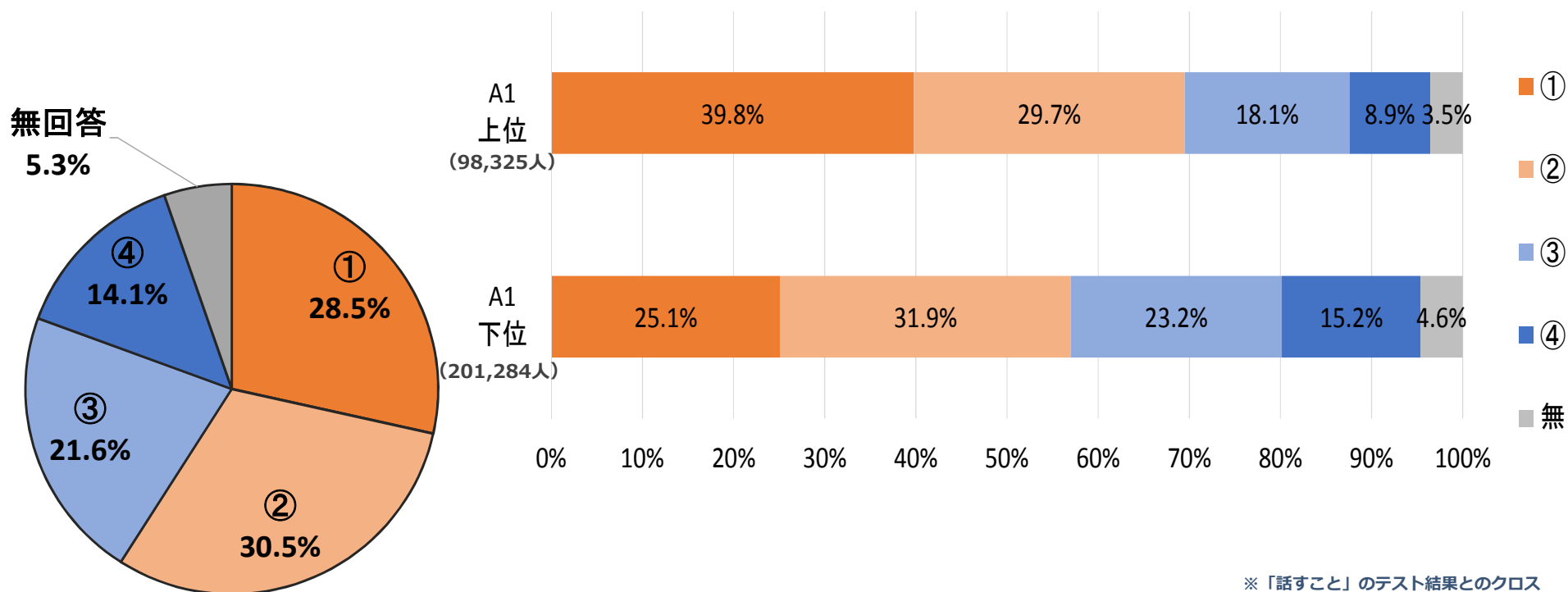
※ 「聞くこと」のテスト結果とのクロス

4 技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「話すこと」

- 英語でスピーチやプレゼンテーションをする活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、59.0%。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



※ 「話すこと」のテスト結果とのクロス

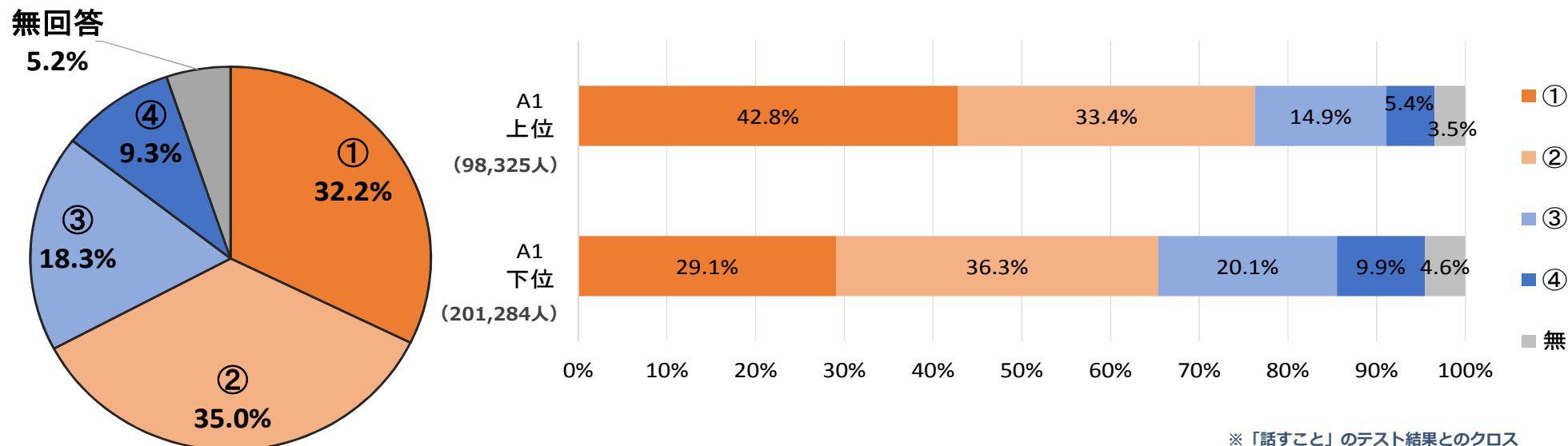
2. 4技能の言語活動に対する生徒の意識

4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識〈技能統合型：聞いたり読んだりして話すこと〉

- 聞いたり読んだりしたことについて、英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、67.2%。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思いますか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



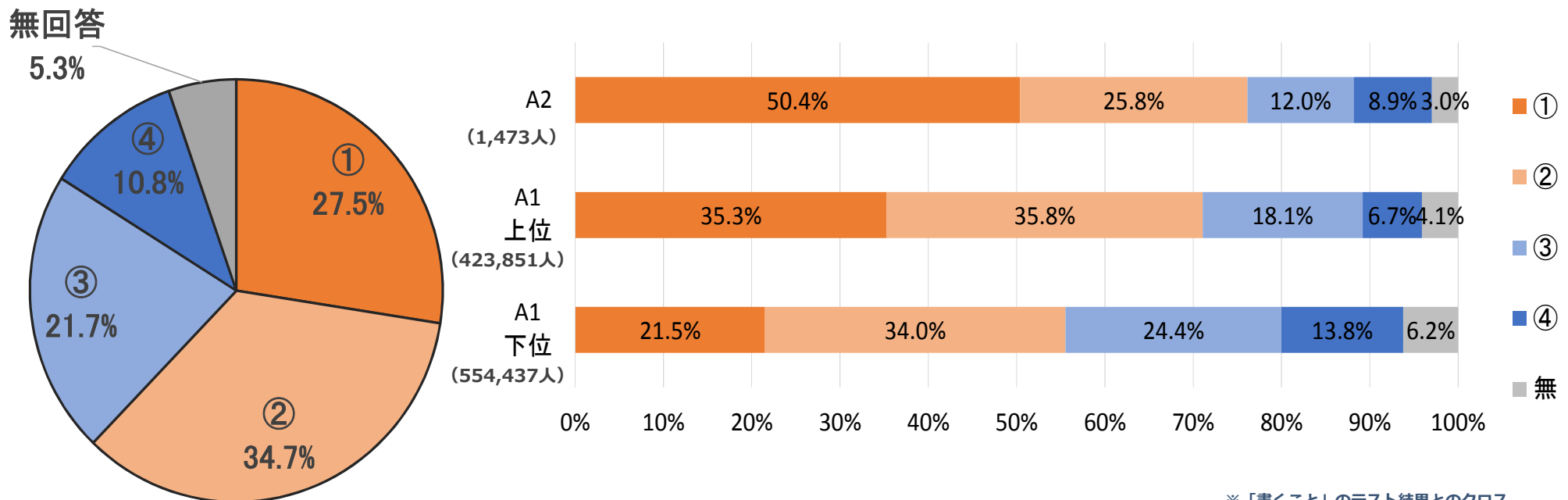
※ 「話すこと」のテスト結果とのクロス

4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識〈技能統合型：聞いたり読んだりして書くこと〉

- 聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりした活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、62.2%。
- 「書くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



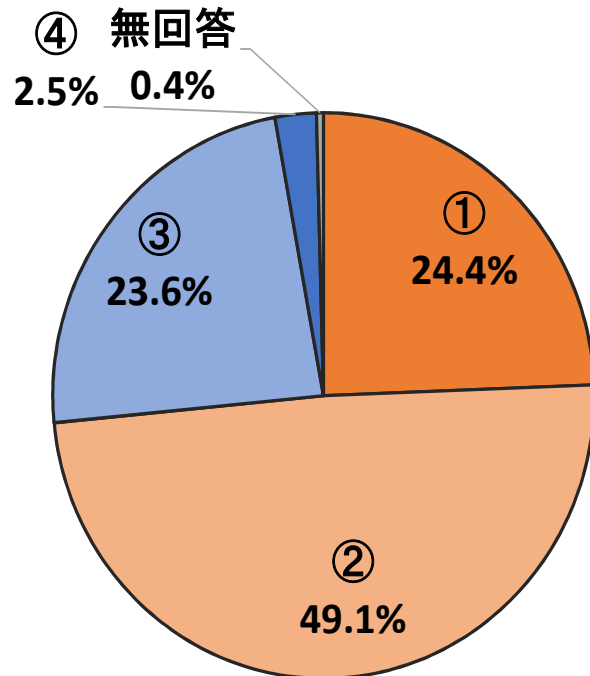
3. 授業における言語活動の指導に対する教員の意識

授業における言語活動の指導「聞くこと」

- まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っている(選択肢①②合計) 教員は、73.5%。

問 まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

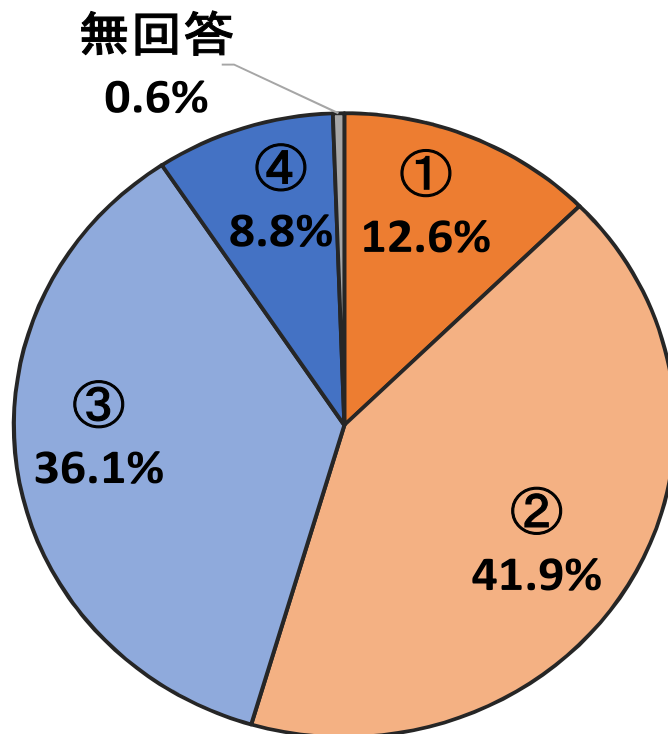


授業における言語活動の指導「書くこと」

- 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように文章を書く活動を行っている（選択肢①②合計）教員は、54.5%。

問 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書く活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



3. 授業における言語活動の指導に対する教員の意識

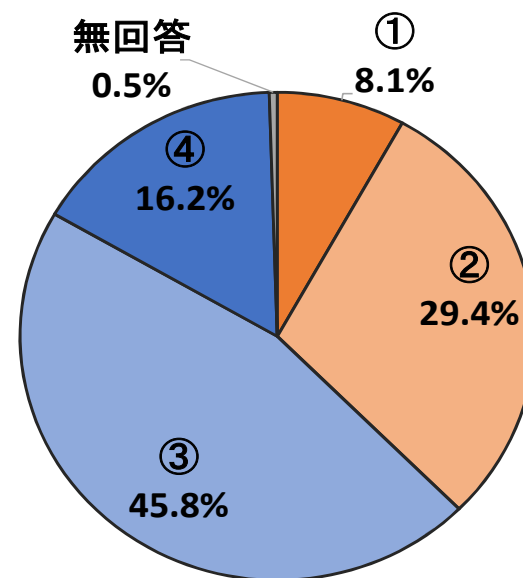
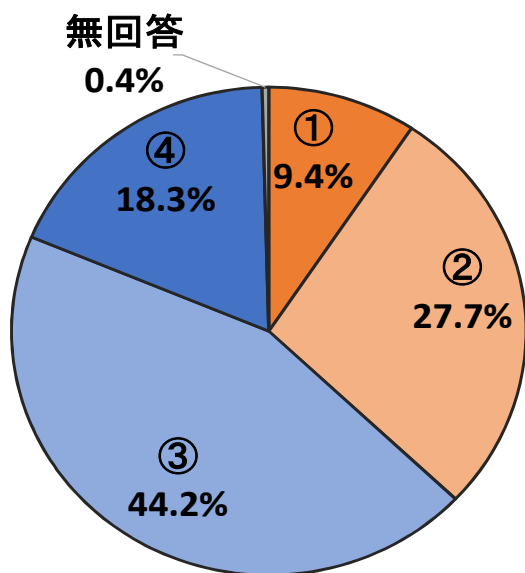
授業における言語活動の指導<技能統合型：聞いたり読んだりしたことに基づく話し合いや意見交換・書く活動>

- 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合いや意見交換を行っている（選択肢①②の合計）教員は、37.1%、書く活動を行っている（選択肢①②合計）教員は、37.5%。

問 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどする活動を行っていますか。

問 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

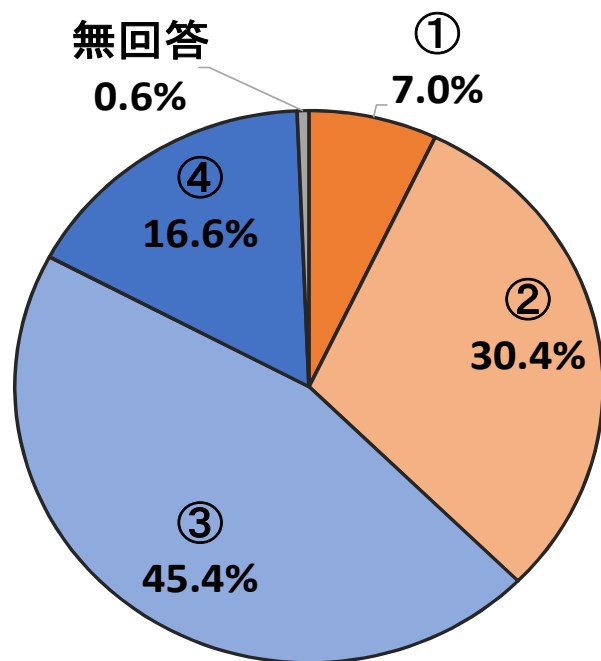


授業における言語活動の指導<技能統合型：感想を述べたり賛否やその理由を示すため、英語を読んで概要や要点をとらえる活動>

- 英語を読んで、感想を述べたり賛否やその理由を示すことができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる活動をしている（選択肢①②合計）教員は、37.4%。

問 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



学校の取組紹介①：スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して高い英語力を育成する

1 学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成27年10月調査日時点）

学級数・生徒数	12学級（478名）／第3学年…4学級（158人）
A L T活用状況	常勤講師1人。
備考	県立の併設型中高一貫校。高校はスーパーグローバルハイスクール（SGH）指定。

2 テスト結果、質問紙における学校の特徴 ⇒ 4技能すべてが全国平均を大きく上回る。

	Reading	Listening	Writing	Speaking
当該中学校の平均点	145.2	138.0	56.9	12.5
全国平均点（公立学校）	82.6 / 170	90.5 / 170	28.5 / 96	7.4 / 14

3 生徒質問紙結果 ⇒ スピーチやプレゼンテーションなどの言語活動の実施率が高い

- ◆ 「英語の学習は好きか」という質問に**71.5%（全国は56.1%）**が「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」と解答。
- ◆ 「英語を話すことに関する活動」について、「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたか」という質問に対して「そう思う」と答えた生徒が**57.1%（全国は28.5%）**と全国平均を大きく上回る。

4 特色ある授業内の取組

①中高一貫教育により中学校の先にある目標を意識して英語学習に取り組める

中高一貫教育のため、英語指導の連続性が保て、中学部・高校部の教員の日々の連携が可能。高校授業体験や、スピーチコンテストに向けて努力する先輩高校生の姿を日常的に目にすることによって、高校での学びをイメージしやすい環境がつけられている。中・高でCAN-DO形式の到達目標も設定されている。

②習熟度別授業でより効果的な英語力を育成

1年次の2学期から英語力の習熟度合により、中学1年次では1学級を2クラスにわけて、2年次・3年次では2学級を3クラスにわけて英語授業を行う。習熟の度合に合わせて、英文を読んだ後に英語で発表を行う活動や、ペアやグループで話し合う活動の内容を変化させている。教科書の題材を基に自分のことについて発表を行うなど、単元に応じた授業も展開されている。

③実技テストなど様々な機会学習した内容を実践

長期休業明けには、ALTを含む先生によるパフォーマンステストが行われる。また、国語科と英語科をはじめとした複数の教科の合科である「ことば科」が設置されており、英語でのプレゼンテーションやレシテーション、英語でのディベート大会実施などを行う。英語や国語、「ことば科」の授業で学んだ内容を活用する機会や場面が、教科間で連携して様々に用意されている。



（グループ・ワークの様子）



（パフォーマンステストの様子）



（カナダ語学研修の様子）

授業外の特徴ある取組

○充実のカナダ語学研修

毎年春期休暇を利用してカナダでの12日間の語学研修を実施。ホームステイ、現地学校での英語研修のほか、各種文化体験も盛り込まれるなど自身の濃い研修であるため、研修費自己負担にも関わらず、毎回希望者が多く抽選となるほどの人気である。

学校の取組紹介②：即興で話すペア・ワーク、グループ・ワークを取り入れ、3年間を通じて表現力を育成

1 学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成27年10月調査日時点）

学級数・生徒数	23学級（935名）／第3学年…8学級（329人）
A L T活用状況	常勤のALT 1人によるパフォーマンステストを実施。
備考	市の施策で小学校低学年次から外国語活動に取り組む。

2 テスト結果、質問紙における学校の特徴 ⇒ 4技能すべてが全国平均を上回る。

	Reading	Listening	Writing	Speaking
当該中学校の平均点	117.0	123.2	47.1	11.2
全国平均点（公立学校）	82.6 / 170	90.5 / 170	28.5 / 96	7.4 / 14

3 生徒質問紙結果 ⇒ 与えられた話題について即興で話す活動の実施率が高い

- ◆ 「英語の学習は好きか」という質問に**73.0%（全国は56.1%）**が「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」と解答。
- ◆ 「与えられた話題について、（特に準備することなく）即興で話す活動をしていましたか」という質問に、**76.5%（全国は49.6%）**が「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と解答。

4 特色ある授業内の取組

①英語をどの程度使えるようになるのか目標の設定を行う

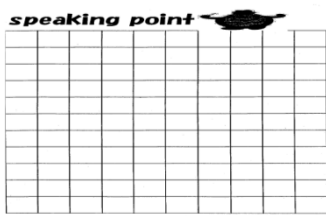
教員は、教科書で新しく学習した文法事項を、生徒がどの程度使えるようになるか目標設定を行っている。週に1回は英語科会が開かれ、授業進度や成績のつけ方、授業での活動やハンドアウトの共有が行われる。そのため、大規模校ではあるがクラス間の指導内容の差は小さい。

②徹底的なペア・ワーク、グループ・ワークでコミュニケーション能力の基礎を育成

1年次より毎時間、テーマを与えてペアで自由に会話を行う。また、授業時間内はかなりの時間をペア・ワークに費やす。毎回違ったペアをつくることを心掛け、会話の内容を記したチャットシートの提出も義務付ける。4人一組によるグループ・ワークでは、英語で発表を聞く、メモをとる、感想を発表する、と複数技能を統合した活動が展開されている。

③ALTの先生を活用したパフォーマンステスト

年に複数回、ALTの先生によるパフォーマンステストを行う。時間は1人あたり1分30秒程度だが、1対1で話す緊張感を体験することも重視している。パフォーマンステストがあることは事前に告知されているため、生徒にとっては日々の英語学習の動機付けともなっている。



(授業内で使用するEnglish STAMP CARD)



(ペア・ワーク等で使用するチャットシート)

授業外の特徴ある取組

○外国人転入生との英語を通じたふれあい

外国人転入生と一般の生徒を同じ教室で、区別なく学ばせることによって、自然と英語を利用したコミュニケーションが生まれ、英語力向上につながっている。

学校の取組紹介③：小中一貫した少人数指導。英語を使う機会を増やし生徒の英語に対する前向きな気持ちを育む

1 学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成27年10月調査日時点）

学級数・生徒数	3学級（37名）／第3学年…1学級（14人）
A L T活用状況	非常勤のALTが1人
備考	市立の施設一体型小中一貫校。

2 テスト結果、質問紙における学校の特徴 ⇒ 4技能すべてが全国平均を上回る。

	Reading	Listening	Writing	Speaking
当該中学校の平均点	94.9	102.5	38.1	9.6
全国平均点（公立学校）	82.6 / 170	90.5 / 170	28.5 / 96	7.4 / 14

3 生徒質問紙結果 ⇒ 英語学習が好きな生徒が多く、生徒同士で話す活動の実施率が高い

- ◆ 「英語の学習は好きか」という質問に**71.4%**（全国は**56.1%**）が「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」と解答。
- ◆ 「英語を話すことに関する活動」について、「生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたか」という質問に対して「そう思う」と答えた生徒が**50.0%**（全国は**32.2%**）と高い。

4 特色ある授業内の取組

①小中一貫で英語教育に取り組む

小中特区として9年間の小中一貫制を導入。小学校1年次から英会話など英語に触れているため、中学から本格的に英語授業が始まっても抵抗感がない。今年より9年間を通して活動目標の設定に取り組み、学校全体としての連続性ある教育を目指している。

②生徒個別のきめの細かい指導

授業ではペア・ワークが行われ、教科書で学習した内容を使ってオリジナルの文をつくる活動もしている。基本事項の定着のためには、単語や文法を厳選した小テストを実施。英語への関心が高い生徒が発展的に取り組めるよう、毎週英文プリントを手渡して多読を促すなど、個別にきめの細かい指導を行っている。各学年のCAN-DOリストに応じたパフォーマンス課題にも取り組んでいる。

③全校生徒の英語のパフォーマンス課題を共有

生徒が英語の授業で取り組んだパフォーマンス課題はデータ化され、各生徒のフォルダに収録。パソコン教室にある20台のパソコンを使って全生徒・教員が自由に閲覧できる。生徒は、現状の習熟度や将来の英語授業の課題を把握することができる。中学生の課題の一部は、校内に掲示し、小学生が中学校での英語授業をイメージできるようにしている。



（校内掲示物の様子）



（パフォーマンス課題の掲示）

特色ある授業外の取組

○学外での聞く・話す機会の設定

広島への修学旅行や沖縄での平和教育などで外国人観光客とのコミュニケーションを促したり、英語コンテストに参加したりするなど、「聞く・話す・表現する」機会を多く設けている。

【調査問題の構成】

- 「読むこと」：多肢選択式・3パート構成・28問（約32分）
- 「聞くこと」：多肢選択式・4パート構成・32問（約18分）
- 「書くこと」：自由記述式・2パート構成・2問（約25分）
- 「話すこと」：音読、即興での質疑応答、ある程度準備した上での意見陳述について評価基準を設け、教員が面接試験を（約10分）

計
約2単位
時間
約10分

	Reading 読むこと	Listening 聞くこと	Writing 書くこと	Speaking 話すこと
測定する力	実際の言語使用場面を前提とした英語コミュニケーション能力 （「知識・技能」の習得だけでなく、それらを活用して思考・判断・表現する総合的な力）			
問題構成	語彙・語法問題 10問 <small>（短文の中で、文脈を理解するとともに、文法的に、また語彙選択上最も適切な表現を正確に判断できる力）</small> ※A1相当	イラスト説明問題 8問 <small>（視覚的情報をもとに、ある状況や場面、事物を描写説明した短文レベルの英文を正しく聞き分ける力）</small> ※A1相当	空所補充英作文問題 1問 <small>（対話中の空所に当てはまる応答を文脈から判断し、適切な英文を用いて表現する力）</small> ※A1相当	音読問題 1問 <small>（適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさで話す力）</small> ※A1～A2相当
	情報検索問題 8問 <small>（与えられた英文の題材について、短時間で必要な情報を引き出す力）</small> ※A1相当	会話応答問題 8問 <small>（不意の問いかけに回答する適当な英文を素早く判断し、処理できる力）</small> ※A1相当	意見展開問題 1問 <small>（身近な事柄について、与えられたテーマに対して個人の経験や他の事例を元に意見と理由を述べる力）</small> ※A1～A2相当	質疑応答問題 1問 <small>（試験官からの問いかけに応じて生徒自身の経験や考えを適切に述べる力）</small> ※A1～A2相当
	概要把握問題2問 <small>（与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を理解する力）</small> ※A1相当	課題解決問題 8問 <small>（日本語で事前に与えられる状況設定及び視覚情報（イラスト）と音声情報から、その場で求められている課題（タスク）を解決する力）</small> ※A1相当		意見陳述問題 1問 <small>（与えられた話題について、事実と自分の意見とを区別して、論理的に説明する力）</small> ※A1～A2相当
	要点理解問題 8問 <small>（まとまった量の英文について、英文の主旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る力）</small> ※A1～A2相当	要点理解問題 8問 <small>（英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、求められている解答を導くために適切な判断をする力）</small> ※A1～A2相当		

【生徒・学校・教員に対する質問紙調査の構成（約15分）】

項目	内容
生徒質問紙	○英語そのものに関する意識 ○英語使用に関する経験 ○英語に関する試験の受験経験 ○英語の学習方法・内容や学習時間について ○学校の英語の授業について
学校質問紙	○教員単位での指導の実態について
教員質問紙	○学校組織での指導の実態について

生徒への質問	教員への質問	学校への質問
○英語に関する意識 ・英語学習への関心 ・英語を身につけ何をしたいか〔国際社会で活躍、大学で専門的に学ぶ、海外留学、日常会話、大学入試、他〕 ○英語使用の経験 ・高校生になってから経験したこと〔イングリッシュキャンプ、スピーチ大会、プレゼンテーション、留学、ホームステイなど〕 ○英語の資格・検定試験の受験経験 ○英語の学習時間・手段 ・予習・復習時間、PC、タブレットなど機器 ○4技能の活動状況 ・生徒同士で意見交換などを行っていたか	○英語の授業での言語活動や指導 ・スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなど ○英語の授業での英語の使用状況 ○生徒が英語の授業でコミュニケーション活動を行っている割合 ○校内外の研修会への参加状況 ○自分の英語力を向上させるための取組 ・英字新聞を読む、テレビの英語講座、語学学校など ○英語の資格・検定試験の受験状況	○研修の実施状況 ・模擬授業、授業相互参観、事例研究など ○学校外研修の活用状況 ○言語活動に重点を置いた指導計画作成状況

問題の特徴 ~Reading①~

R

Part B 情報検索問題

与えられた英文の題材から、短時間で必要な情報を引き出す力
(情報検索力) を測定する問題。

CEFR:A1~2



Redmont City Gardening Festival

Monday, May 4 - Sunday, May 10

Event Information

Day	Event (Title of speech)	Speaker	Place
Monday	Growing Potatoes	Mr. Brown	Brown's Farm
Tuesday	Growing Cabbages	Ms. Miller	Watson's Field
Wednesday	Growing Tomatoes	Mr. Carter	Campbell's Farm
Thursday	Growing Pumpkins	Ms. Miller	Central Park
Friday	Growing Cucumbers	Mr. Watson	Nelson's Farm

*On Saturday and Sunday, the local market will sell all items shown at the festival including this season's best tomatoes.



For details, call 123-555-1450.

15 What day can you hear a speech about tomatoes?

- [A] On Monday.
- [B] On Wednesday.
- [C] On Friday.
- [D] On Saturday.

正答

B

正解率 : 82.6%

16 Where can you hear Ms. Miller's speech on Thursday?

- [A] At Brown's Farm.
- [B] At Watson's Field.
- [C] At Campbell's Farm.
- [D] At Central Park.

正答

D

正解率 : 61.3%

※ Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

中学校学習指導要領 外国語より

「読むこと」(ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。

問題の特徴 ～Reading②～

R

Part C
要点理解問題

与えられた英文の題材について、短時間で概要や要点を読み取る力を測定する問題。

CEFR:A2

Years ago, people in towns and cities knew everyone else, and they helped each other. These days, people are busy, so they sometimes don't even know other people living on the same street. The country of Scotland has started many projects to bring people in towns and cities together again. The projects are called Boomerang projects.

There are many different types of projects. For example, some towns in Scotland make places for people of all ages to come together. At these places, people can do activities together and learn how to do new things, like using computers. There are also dance and sports classes to help them have better health.

One project in the city of Dundee brings young and old people together. In the project, young people help older people with their shopping and take them to interesting places, like museums and parks. For young people, they can learn about local history by hearing stories about how life used to be.

Boomerang projects help people meet others in their areas, and teach them important life lessons.

25 What is this story mainly about?

- [A] Interesting places to visit.
- [B] Projects to bring people together.
- [C] Reasons to move to other towns.
- [D] Ways to learn about history.

正答

B

正解率 : 59.3%

※実際は質問が4つあります。

中学校学習指導要領 外国語より

「読むこと」(ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。

問題の特徴 ～Listening①～

L

Part A イラスト説明問題

イラストをもとに、ある場面や状況、事物を描写説明した英文を正しく聞き分ける力を測定する問題。

CEFR:A1

1



正答

A

正解率：92.8%

<スクリプト>

- F:
[A] A man is building a house for birds.
[B] A man is making a table outside.
[C] A man is putting some wood next to a tree.

[A]

[B]

[C]

中学校学習指導要領 外国語より

「聞くこと」(イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。

問題の特徴 ～Reading②～

R

Part C
要点理解問題

与えられた英文の題材について、短時間で概要や要点を読み取る力を測定する問題。

CEFR:A2

Years ago, people in towns and cities knew everyone else, and they helped each other. These days, people are busy, so they sometimes don't even know other people living on the same street. The country of Scotland has started many projects to bring people in towns and cities together again. The projects are called Boomerang projects.

There are many different types of projects. For example, some towns in Scotland make places for people of all ages to come together. At these places, people can do activities together and learn how to do new things, like using computers. There are also dance and sports classes to help them have better health.

One project in the city of Dundee brings young and old people together. In the project, young people help older people with their shopping and take them to interesting places, like museums and parks. For young people, they can learn about local history by hearing stories about how life used to be.

Boomerang projects help people meet others in their areas, and teach them important life lessons.

25 What is this story mainly about?

- [A] Interesting places to visit.
- [B] Projects to bring people together.
- [C] Reasons to move to other towns.
- [D] Ways to learn about history.

正答

B

正解率 : 59.3%

※実際は質問が4つあります。

中学校学習指導要領 外国語より

「読むこと」(ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。

問題の特徴 ~Writing①~

W

Part A

対話文中の空所に当てはまる応答を前後の文脈から判断し、適切な英語を用いて表現する力を測定する問題。

CEFR:A1~2

次の対話文(1)、(2)の()に合う適当な英文を作成し、自然な会話を完成させなさい。ただし、英文は主語と動詞を含んだ文にすること。
時間は2問あわせて5分です。

- (1) あなたは友だちのAnnaと映画館へ向かって歩いています。

Anna: What time is it now?

You: (1)

Anna: Well, the movie starts at five thirty.

You: We should walk faster. We only have thirty minutes left!

- (2) あなたは自分でつくったサンドイッチを自宅で友だちのRobertと一緒に食べています。

Robert: This sandwich looks great!

You: Thank you. (2)

Robert: Yes, please. What do you have?

You: We have milk and orange juice.

Robert: Milk, please.

<解答例>

1. It's five o'clock.

2. Would you like something to drink?

中学校学習指導要領 外国語より

「書くこと」(イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。

問題の特徴 ～Writing②～

W

Part B 意見展開問題

与えられたテーマに対して、限られた時間の中で自分の意見や考えを説得力を持って書いて表現する力を測定する問題。

あなたは授業中に、下記のテーマで英語の作文を提出することになりました。

作文のテーマ：

あなたが1年のうちで最も好きな月は何月ですか。1つ取り上げて、なぜそう思うか、その理由を書きなさい。

〔 ※下のイラストは具体的に例を挙げるときの参考です。
イラストの内容を描写しても、あなた自身の経験を書いてもかまいません。 〕

<参考>

CEFR:A2



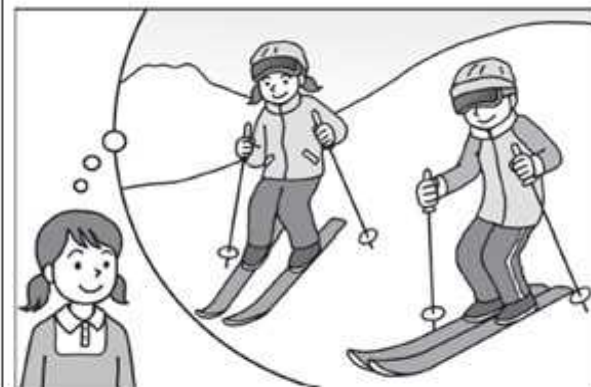
<解答例>

The month I like the most is April. Let me explain why.

My birthday is in April. On my birthday, I always have a party. Most of my friends come to my house and bring me presents. I like getting presents. Also, we play games and do lots of activities. I always get excited when I think about my birthday.

Another reason I like April is because it is in spring. In spring, the cherry trees in the park near my house look beautiful. I go to that park with my parents every year to look at the cherry trees and have a great time.

These are the reasons why I like April the most. I really have fun during this month.



中学校学習指導要領 外国語より

「書くこと」(オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

問題の特徴 ～Speaking①～

S

Part B
質疑応答問題

受験者が見聞きしたり経験したりしたことなどに基づいて、質問に即興的に応答する力を測定する問題。

CEFR:A1~2

<試験官スクリプト>

Question No.3: *Which do you like better, dogs or cats?*
(生徒が解答します。生徒の解答の後、重ねて質問してください。)
Why?

<解答例>

I like dogs because I can play games with them.

中学校学習指導要領 外国語より

「聞くこと」(ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。
「話すこと」(イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。

問題の特徴 ～Speaking②～

S

Part C
意見陳述問題

与えられた話題について、個人の考えや経験などに基づいて自分の意見とその理由を述べる力を測定する問題。

CEFR:A2

Topic: Your best way to enjoy weekends

<試験官スクリプト>

Please tell me your best way to enjoy weekends. Why?

You will have one minute to think about your answer.

Then, you will have one minute to speak.

(試験官が準備時間60秒を測定します。60秒後に解答開始の指示を出します。)

<60 seconds>

Now, please begin.

<解答例>

On weekends, I usually enjoy playing soccer with my friends. I am very happy when my team wins because we can celebrate together.

中学校学習指導要領 外国語より

「話すこと」(オ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。

【ライティング採点体制】

答案をスキャンデータで海外採点会場へ送り、海外専任スタッフが採点を行う。
採点監督者、採点チームリーダー、採点者の体制（※人数については受験人数・時期に対応して増員）で採点を実施。
組織内ではより確実な採点を行うため、同じ答案を2名の採点者が担当する。

*採点監督者および採点者には、2ヶ月間の事前研修を実施。

【採点基準】

■ 1. 空所補充英作文問題

	0	1
内容	英文が書かれていなかったり、文脈から外れたことを書いている。	文法上の誤りがほぼ見られず、ほぼ正しく、内容を伝えることができている。

■ 2. 意見展開問題

		0	1	2	3	4	
内容 (意見)	課題に対する自分の意見や立場を伝えることができる。	表現(語彙)	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	自分の言いたいことを伝える語彙を適切に選ぶことができなかつたり、使い方に誤りが見られたりするため、伝えたい内容を理解できないところが多くある。	自分の言いたいことを伝える語彙を適切に選ぶことができなかつたり、使い方に誤りが見られたりするため、考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	様々な語彙を文脈に合わせて適切に選ぶことができている。また、使い方もほぼ正しく、十分に考えを伝えることができている。	豊富で多様な語彙を文脈に合わせて適切に選ぶことができている。また、使い方も正しく、効果的に考えを伝えることができている。
		表現(文法)	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られるため、伝えたい内容を理解できないところが多くある。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られることがあるため、考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	様々な文のパターンを用いることができている。また、使い方もほぼ正しく、十分に考えを伝えることができている。	豊富で多様な文のパターンを用いることができている。また、使い方も正しく、効果的に考えを伝えることができている。
内容 (理由)	自分の意見や立場をサポートする理由や具体例などを伝えることができている。	構成	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	文と文とのつながりが悪かつたり、言いたいことがうまくまとまっていなかつたりするため、読み手が混乱して伝えたい内容を理解できないところが多くある。	文と文とのつながりがよくなかつたり、言いたいことがうまくまとまっていなかつたりするため、読み手が混乱して考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	文と文とのつながりがよく、文章全体の流れもほぼ自然で、十分に考えを伝えることができている。	文と文とのつながりがよく、文章全体の流れが自然で一貫しており、考えを明確に伝えることができている。

【スピーキング事前研修】

事前に送付するスピーキングテスト研修用DVDと冊子を活用し、研修を受けた状態で教員が面接試験を実施する。

【研修の目的】

実施環境の設定、出題内容、評価方法、評価基準について理解することを目的とする。DVDに収録されている「トライアル採点課題セット」に取り組み、内容理解度を確認する。

【研修の内容】

項目	目的	内容
テスト実施の流れ	スピーキングテストの実施の流れ（事前準備～実施～採点）を把握する。	テスト実施全体の流れ 事前準備 テスト実施 採点結果記入
採点について	採点観点と基準、応答例・採点法、採点基準ごとの解答例を把握する。	採点観点と基準 応答例・採点 各得点における解答例 ・ Part A（音読） ・ Part B（即興を前提とするやりとり） ・ Part C（ある程度の準備をした上で話すこと）
トライアル採点課題セット	トライアル採点を行い、理解度を確認する。	トライアル採点課題セットの活用について 5名分の応答例

【テスト実施の全体の流れ】

1. 事前準備

- テスト構成、採点換点・採点基準を確認する
- 問題用紙、エントリーカードなどの準備を行う
- 受験者に事前に注意事項を伝達する
- 試験会場の設営を行う

2. テスト実施

- 入室 → 本人確認 → 質疑応答 → 退室

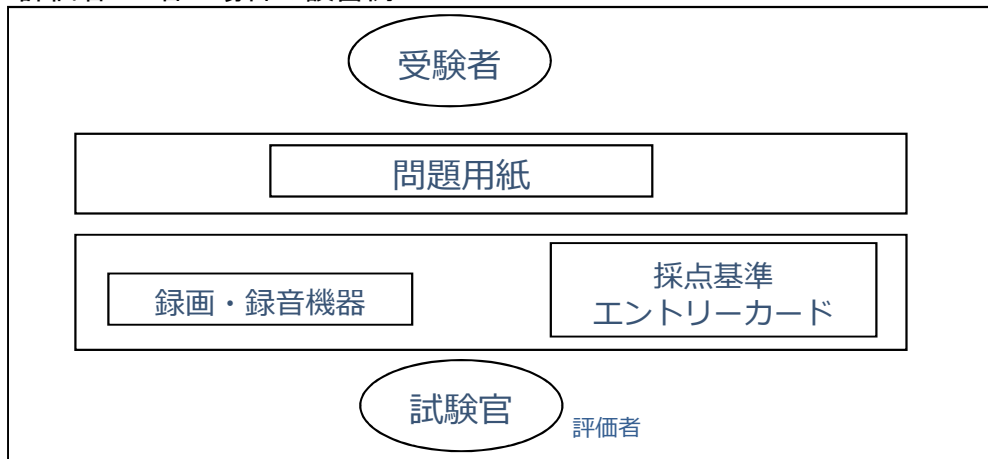
3. 採点結果記入

- エントリーカード（採点結果の記入欄）に採点結果を記入する
- エントリーカードに記入漏れがないかを確認する

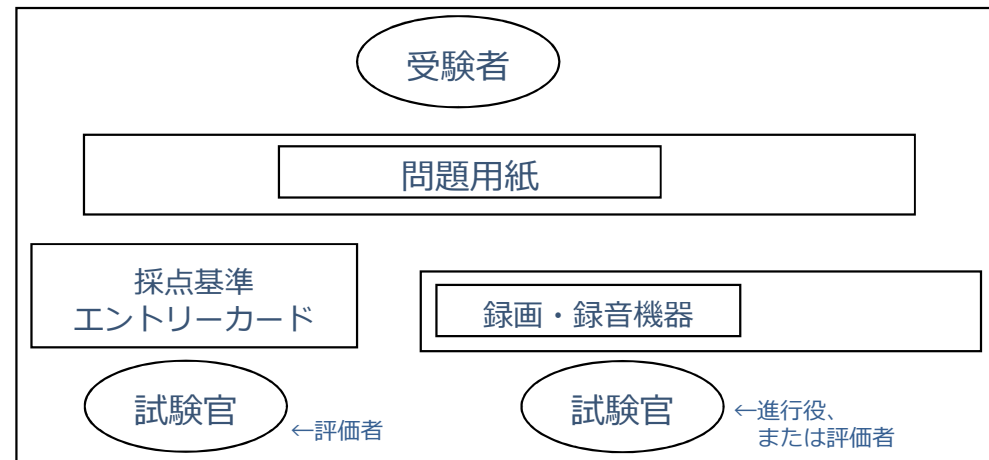
* 英語担当教員は、担当する生徒以外の生徒のスピーキング評価を行うこととしている（1クラスの場合は除く）。

【試験会場の設営】

評価者が1名の場合の設営例



評価者が2名の場合の設営例



【スピーキング採点基準】

	PartA:音読	PartB:即興を前提とするやりとり		PartC:ある程度の準備をした上で話すこと	
	音読の評価	内容の評価	文法、表現の評価	内容、構成の評価	文法、表現の評価
3点		相手の発話に対応した適切な内容で、すべてに回答できている。	適切に回答できていて、適切な文法や表現を用いて話している。誤りがあっても理解には影響しない。	与えられた質問に対応した内容となっていて、論理展開がわかりやすい構成となっている。	自分の言葉で十数語以上は話して、適切な文法や表現を用いている。誤りがあっても理解には影響しない。
2点	明瞭で自然な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話せている。	相手の発話に対応した適切な内容で、おおよそ回答できている。	ほぼ適切に回答できていて、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる。	与えられた質問に対応した内容となっていて、単純な要素を関連づけて述べている。	自分の言葉で十数語以上は話して、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる。
1点	母語アクセントが残っていたり、発音ミスも時にあるが、聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話せている。	相手の発話に対応した適切な内容で回答できているのは半分以下である。。	時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくるが、平易な表現は正しく使えていて、伝えたい内容はだいたいわかる。	与えられた質問に対応した内容となっているが、単純な要素を並べ立てている。	自分の言葉で十数語以上は話して、時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくるが、平易な表現は正しく使えていて、伝えたい内容はだいたいわかる。
0点	適切に発音できる内容は限定的で、聞き手が理解するのに困難が伴う。	相手の発話に対応した適切な内容でほとんど回答できない。	使える文法や表現は限定的である、あるいは、適切な内容でほとんど回答することができない。	与えられた質問に対応した内容になっていない、あるいは内容が量的にほとんどないか断片的である。	使える文法や表現は限定的である、あるいは自分の言葉で話せた内容が十数語に満たない。

外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠について

熟練した言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいいの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

(出典) ブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)				8.5-9.0				
C1	CAE (180-199)	1級 (2810-3400)	1400		7.0-8.0	400	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2596-3200)	1250-1399	980 L&R&W 810	5.5-6.5	334-399	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1780-2250)	1000-1249	815-979 L&R&W 675-809	4.0-5.0	226-333	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1635-2100)	700-999	565-814 L&R&W 485-674	3.0	186-225		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (790-1875)	-699	-564 L&R&W -484	2.0				200-380 L&R 120~ S&W 80~

英検：日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>
http://www.eiken.or.jp/association/info/2014/pdf/0901/20140901_pressrelease_01.pdf

TOEFL：米国ETS <http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RM-15-06.pdf?WT.ac=clkb>

IELTS：ブリティッシュ・カウンシル（および日本英語検定協会）資料より

TEAP：第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より

Cambridge English（ケンブリッジ英検）：ケンブリッジ大学英語検定機構 <http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>

<http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/>

GTEC：ベネッセコーポレーションによる資料より

「L&R&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

TOEIC：IIBC <http://www.toeic.or.jp/toeic/about/result.html>

「L&R」または「S&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

※各団体の公表資料より文部科学省において作成

CEFR / CEFR-J をもとにした本調査の測定範囲

調査結果について

本調査結果では、英語力の指標としてCEFRおよびCEFR-Jを用いた。CEFR-Jは、CEFRに準拠して基礎レベルをより詳細に枝分かれさせた日本人英語学習者向けの参照枠でCEFRの「A1」は、CEFR-Jでは「A1.1」「A1.2」「A1.3」に分割される。本調査のCEFR閾値は、「Pre A1」「A1.1」を「A1下位」、「A1.2」「A1.3」を「A1上位」とした。各レベルが表す英語力の目安は以下表の通りである。

CEFRレベル	Reading	Listening	Writing	Speaking (表現)	Speaking (やりとり)	測定範囲		
						高校	中学	
B2	筆者の姿勢や視点が出てくる現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	長い会話や講義を理解することができる。また、もし話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑であっても理解できる。たいていのテレビのニュースや時事問題の番組も分かる。標準語の映画なら、大部分は理解できる。	興味関心のある分野内なら、幅広くいろいろな話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。エッセイやレポートで情報を伝え、一定の視点に対する支持や反対の理由を書くことができる。手紙の中で、事件や体験について自分にとっての意義を中心に書くことができる。	自分の興味関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。時事問題について、いろいろな可能性の長所、短所を示して自己の見方を説明できる。	流暢に自然に会話をすることができ、母語話者と普通にやり取りができる。身近なコンテキストの議論に積極的に参加し、自分の意見を説明し、弁明できる。			
B1	非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。	仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。話し方が比較的ゆっくり、はっきりしているなら、時事問題や、個人的もしくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。私信で経験や印象を書くことができる。	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語ることができる。意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、またそれに対する感想・考えを表現できる。	当該言語圏の旅行中に最も起こりやすいたいていの状況に対処することができる。例えば、家族や趣味、仕事、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。			
A2	A2.2	簡単な英語で表現されれば、旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を探すことができる。	スポーツ・料理などの一連の行動を、ゆっくりはっきりと指示されれば、指示通りに行動することができる。	身の回りの出来事や趣味、場所、仕事などについて、個人的経験や自分に直接必要のある領域での事柄であれば、簡単な描写ができる。	写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の毎日の生活に直接関連のあるトピック(自分のこと、学校のこと、地域のことなど)について、短いスピーチをすることができる。	簡単な英語で、意見や気持ちをやりとしたり、賛成や反対などの自分の意見を伝えたり、物や人を較べたりすることができる。		
	A2.1	簡単な語を用いて書かれた人物描写、場所の説明、日常生活や文化の紹介などの、説明文を理解することができる。	ゆっくりはっきりと放送された人物描写、場所や駅や空港の短い簡潔なアナウンスを理解することができる。	日常的・個人的な内容であれば、公共の乗り物や駅、メモ、メッセージなどを簡単な英語で書くことができる。	一連の簡単な語句や文を使って、自分の趣味や特技に触れながら自己紹介をすることができる。	順序を表す表現であるfirst, then, nextなどのつなぎ言葉や「右に曲がって」や「まっすぐ行って」などの基本的な表現を使って、単純な道案内をすることができる。		
A1 上位	A1.3	簡単な語を用いて書かれた、スポーツ・音楽・旅行など個人的な興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真も参考にしながら理解することができる。	ゆっくりはっきりと話されれば、自分自身や自分の家族・学校・地域などの身の回りの事柄に関連した句や表現を理解することができる。	自分の経験について、辞書を用いて、短い文章を書くことができる。	前もって発話することを留意した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文に用い、複数の文で意見を言うことができる。	趣味、部活動などのなじみのあるトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。		
	A1.2	簡単なポスターや招待状等の日常生活で使われる非常に短い簡単な文章を読み、理解することができる。	趣味やスポーツ、部活動などの身近なトピックに関する短い話を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)について短い文章を書くことができる。	前もって発話することを留意した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、簡単な意見を言うことができる。	基本的な語や言い回しを使って日常のやりとり(何ができるかできないかや色についてのやりとりなど)において単純に応答することができる。		
A1 下位	A1.1	「駐車禁止」、「飲食禁止」等の日常生活で使われる非常に短い簡単な指示を読み、理解することができる。	当人に向かって、ゆっくりはっきりと話されれば、「立て」「座れ」「止まれ」といった短い簡単な指示を理解することができる。	住所・氏名・職業などの項目がある表を埋めることができる。	基礎的な語句、定型表現を用いて、限られた個人情報(家族や趣味など)を伝えることができる。	なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所について質問したり、質問に答えたりすることができる。		
	Pre.A1	口頭活動で既に慣れ親しんだ絵本の中の単語を見つけることができる。	ゆっくりはっきりと話されれば、日常の身近な単語を聞き取るすることができる。	アルファベットの大文字・小文字、単語のつづりをブロック体で書くことができる。	簡単な語や基礎的な句を用いて、自分についてのごく限られた情報(名前、年齢など)を伝えることができる。	基礎的な語句を使って、「助けて!」や「～が欲しい」などのイブンの要求を伝えることができる。また、必要があれば、欲しいものを指さしながら自分の意思を伝えることができる。		

(出典)『CAN-DOリスト作成・活用 英語到達度指標CEFR-Jガイドブック』(2013)、投野由紀夫(編)、大修館書店
 (出典)Council of Europe (2008)『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』、吉島茂、大橋理枝(訳、編)、朝日出版社
 ※上記出典をもとに、「B2」「B1」は「CEFR」、「A2」「A1」は「CEFR-J」のCAN-DO文言をもとに作成

外部試験団体と連携した英語力調査事業

平成27年度予算額 116,325千円(116,325千円)

英語教育の在り方に関する有識者会議報告(H26. 9. 26)

生徒の英語力を把握し、きめの細かな指導の改善・充実や生徒の学習意欲の向上につなげるため、「第2期教育振興基本計画」(平成25年6月14日閣議決定)において掲げられている英語力の目標(学習指導要領に沿って設定される目標(中学校卒業段階:英検3級程度以上、高等学校卒業段階:英検準2級程度から2級程度以上)を達成した中・高生の割合50%)から、高等学校段階の生徒の特性・進路等に応じた英語力、例えば、高等学校卒業段階で、英検2から準1級、TOEFL iBT60点程度等以上を設定し、生徒の英語力の把握・分析・改善を行うことが必要。

【指導改善における活用のイメージ】

英語の資格・検定試験を活用し、生徒の英語力を把握・分析・検証し、教員の指導改善へ活用。(平成26年度に高校3年生を対象に実施したフィージビリティ調査を基に実施)。また、英語の資格・検定試験の活用促進に必要なデータの分析・研究も併せて行う。

- 生徒の英語力や学習状況について把握・分析を行い、それらの結果を指導改善に活用
- 第2期教育振興基本計画の成果指標である英語力を4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)にわたって測定
- 高等学校に加え、新たに中学校も対象に追加

<Plan> 学校における指導計画

<Do> 学習状況・指導内容

<Check>

英語の資格・検定試験実施団体、
研究機関と連携した英語力調査

質問紙
調査

効果的な指導の検証・課題の抽出

<Action> 指導改善の取組

(参考)生徒の英語力に関する目標について

◆ 第2期教育振興基本計画(平成25年6月14日閣議決定)(抜粋)

成果目標5(社会全体の変化や新たな価値を主導・創造する人材等の養成)

「社会を生き抜く力」に加えて、卓越した能力※を備え、社会全体の変化や新たな価値を主導・創造するような人材、社会の各分野を牽引するリーダー、グローバル社会にあって様々な人々と協働できる人材、とりわけ国際交渉など国際舞台で先導的に活躍できる人材を養成する。

これに向けて、実践的な英語力をはじめとする語学力の向上、海外留学者数の飛躍的な増加、世界水準の教育研究拠点の倍増などを目指す。

※能力の例:国際交渉できる豊かな語学力・コミュニケーション能力や主体性、チャレンジ精神、異文化理解、日本人としてのアイデンティティ、創造性など

【成果指標】

＜グローバル人材関係＞

①国際共通語としての英語力の向上

・学習指導要領に基づき達成される英語力の目標(中学校卒業段階:英検3級程度以上, 高等学校卒業段階:英検準2級程度～2級程度以上)を達成した中高校生の割合50%

②英語教員に求められる英語力の目標(英検準1級, TOEFL iBT80点, TOEIC730点程度以上)を達成した英語教員の割合(中学校:50%, 高等学校:75%)

◆ 今後の英語教育の改善・充実方策について 報告

(H26年9月26日 英語教育の在り方に関する有識者会議)(抜粋)

生徒の英語力の目標については、「第2期教育振興基本計画」(平成25年6月14日閣議決定)において、中学校卒業段階で英検3級程度以上、高等学校卒業段階で英検準2級程度～2級程度以上を達成した中高生の割合を50%とすることとされている。この実現に向けて取り組むとともに、高等学校卒業時に、生涯にわたり「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を積極的に使えるようになる英語力を身に付けることを目指す。

あわせて、生徒の英語力の目標を設定し、調査による把握・分析を行い、きめ細かな指導改善・充実、生徒の学習意欲の向上につなげる。これまでに設定されている英語力の目標から、高校生の特性・進路等に応じて、高等学校卒業段階で、例えば英検2級から準1級、TOEFL iBT60点前後以上等を設定し、生徒の多様な英語力の把握・分析・改善を行うことが必要。


平成27年度 英語教育改善のための英語力調査スケジュール

【目的】

全国で無作為に抽出した国公立中学3年生約6万人(約600校)を対象に、新学習指導要領の着実な実施に向け、英語に関する4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)がバランスよく育成されているかという観点から、教員の指導改善に活用できるよう、生徒の英語力や学習状況を把握・分析する。

※フイージビリティ調査として実施

【スケジュール】

4月下旬	○教育委員会等への事業説明会(教育委員会から実施校へ依頼・説明)
5月初旬～	○第1回検討会 <ul style="list-style-type: none"> ・分析方針 ・試験問題、質問紙(案)等
6月29日 ～7月31日	○各学校において調査実施
9～12月	○生徒個票返却 ○第2回検討会
	<div style="text-align: center;">  <p>調査結果分析</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の英語力の分布 ・質問紙の結果とスコアのクロス集計 ・結果を活用した指導改善に向けた取組の在り方 等
3月	○第3回検討会 ○調査結果報告書とりまとめ・公表

「英語教育改善のための英語力調査の分析・活用に関する検討委員会」について

平成27年5月1日
初等中等教育局長決定

■ 設置の趣旨

平成27年度「英語教育改善のための英語力調査事業」を活用して、生徒の英語力の現状等を検証するとともに、調査結果に関する分析及びその活用の推進のための方策等について検討を行う「英語教育改善のための英語力調査の分析・活用に関する検討委員会」を設置する。

■ 取扱事項

- (1) 生徒の英語力の現状把握及び調査結果の分析
- (2) 調査結果を活用した改善に向けた取組の推進方策の検討
- (3) その他

■ 委員名簿（五十音順） ○主査

安間 一雄	獨協大学国際教養学部言語文化学科 教授
岡部 憲治	工学院大学附属中学校・高等学校 教諭
竹内 理	関西大学外国語学部外国語学科 教授
根岸 雅史	東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授
○松本 茂	立教大学グローバル教育センター長
森 博英	東京女子大学現代教養学部人間科学科 教授
渡部 良典	上智大学言語科学研究科 教授

文部科学省においては、次の関係官が担当。

平木 裕 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
(兼) 国際教育課外国語教育推進室教科調査官